

新型コロナウイルス対策 ガイドライン

中四国学生バドミントン連盟

I. 概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、政府からは緊急事態宣言発令後全国的に様々な活動が自粛となり、大学生も生活のほとんどを自宅で過ごすこととなりました。自粛の解除がされ、各大学では主に Web での授業が開始されている中、課外活動については、再開できる時期や方法の設定は大学ごとに方針が大きく分かれている現状です。当連盟ではこれらの状況を鑑み、当連盟主催の大会開催にあたって新型コロナウイルスの感染拡大・予防の行動基準をまとめた大会を開催するための新型コロナウイルス対策ガイドラインを策定し、それをもとに、可能な限り大会実施する方針となりました。大会を実施する場合、以下に記述する内容をもとに行います。皆さまにはご理解とご協力をお願い申し上げます。

また、本ガイドラインは公益財団法人日本バドミントン協会が作成した、『新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン』の『3章バドミントン競技大会・イベント実施にあたって』を参考にしています。

II. 大会開催への配慮及び準備に関する留意事項

大会実施に際して従来の大会運営作業に加えて、会場内において参加者が密にならないようにすることや、飛沫防止対策などの感染症拡大防止対策を行い大会運営します。

(1) 大会関係者について 大会関係者(大会に関わる人)とは、選手だけでなく、チームスタッフ・大会スタッフ、大会カテゴリーによっては保護者までを対象とする。

- ・選手及び指導者、大会スタッフ等の関係者の総数を想定して検討する。
- ・運営スタッフ等の体調確認を行う。
- ・運営に関わる全てのスタッフの検温を実施し、書類による体調の確認を行う。
- ・大会関係者は、常時マスクまたはフェイスシールドを着用する。水分補給を促し、熱中症対策も講じる。
- ・状況により、観客(応援者)の入場制限を行う。(事前告知)
→段階を経て、観客の入場方法を検討する。

(2) 会場内使用する物品の確認

感染拡大予防として、各所で使用する物品(消毒薬、遮蔽用具、清掃用具等)を事前に確認し準備する。その際、主催者側と開催施設側で準備する範囲等を明確にする。

(3) 式典等、運営の簡略化

開閉会式、表彰式などは、参加者が密になる状態を避けるため、開催の有無、参加者の制限、内容の簡略化など、柔軟に対応する。

- ・レセプションについては、極力開催しないこと。
- ・諸注意などの伝達事項は、書面配付や SNS を活用する。
- ・物品販売の規制又は禁止する。

→本大会では CM 会議、開閉会式は行わないようにする。また、表彰式も行わず、賞状などの準備ができた人から各自本部に取りに来てもらう。

(4) 大会会場内に関する確認及び準備事項 会場の使用方法等については、施設管理者(自治体・指定管理者等)と十分に協議の上、実施内容や役割を決める。

1) 会場出入口等

- ・ドアを常時開放する(換気とドアへの接触を防ぐため)。
- ・開場時に人数を区切って入場させる(事前に来場時間分けを行うなど来場時間を分散する)。→HP や主務ラインで伝える
- ・下駄箱の利用を禁止する(各自ビニール袋で自己管理等を行う)。
- ・入場制限を行う際は、事前に制限方法を決め、施設側へ伝える。
- ・密を避けるため、組み合わせやタイムテーブルの貼付は行わない。→HP に掲載する

2) トイレ、手洗い場所

トイレ(洗面所)は感染リスクが比較的高いため、以下に配慮する。

- ・関係者が触れると考えられる場所(洗面台、ドアノブ等)をこまめに消毒する。
- ・洗面所には、石鹸(ポンプ型が望ましい)やアルコール等の手指消毒剤を用意する。
- ・手指乾燥機は使用しない。

3) 更衣室、食事・休憩・待機スペース(参加者)

- ・更衣室の使用範囲を更衣のみとし、シャワー・ロッカーの使用を禁止する。
- ・更衣室の規模により、人数制限(定員)を決める(施設管理者との協議)。
- ・食事場所は、飛沫が発生し感染リスクが高いことから、場所を指定し、密にならないよう感染拡大防止を徹底する。屋外への設置を推奨する。
- ・参加者の待機スペースは、利用可能範囲を示し、使用場所を指定し席の移動を禁止する。
- ・定期的な消毒を行う。

4) 大会本部及び関係者控室

- ・大会本部の設置は、密を避けるように配置し、適切な運営スペースを確保する。
- ・関係者控室は、なるべく多くの部屋を確保し、密を避けるようにする。但し、確保が困難な場合は、飛散防止シート等の設置、利用人数の制限を行う。
- ・可能な限り常時、窓や扉を開放する。難しい場合は、換気をこまめに行う。
- ・運営物品や共用物等は、定期的に消毒を行う。

5) 競技会場(競技スペース)及び競技関係用具類等

バドミントンの大会は体育館内で行われるため、換気については特に配慮が求められます。また、競技で使用する用具には不特定多数の方が直接手を触れる物が多いため、開催期間の前後を含む継続した対応が必要です。

- ・遮光性に配慮の上、可能な限り窓や扉を開放して行う。
- ・窓や扉の開放ができない場合は、換気の悪い密閉空間とならないよう十分な換気を行う。その際は、換気のタイミングや換気時間等を決め、事前に周知する。なお、常時換気できる設備がある場合は、可能な限り使用する。

→本大会では 2 時間に 1 回は 5～10 分の換気をするようにする。

- ・コートサイドには、選手が使用するカゴやドリンクケースを設置せず、各自バッグを持参させ、飲み物も各自バッグに収容させる。
- ・コーチ席は 1 席、または設置しない。
- ・コートのモップ掛けは、ゲーム毎と試合終了後に行う。
- ・毎試合終了後、審判台・サービスジャッジ席・線審席・コーチ席・サービス高測定器・得点板等を消毒する。

→使っていた人が消毒できるよう近くに除菌シートなどを置いておく。

6) 競技関係者及び競技中の確認事項

・主審、サービスジャッジ、線審、得点係等は、マスクを着用する。(水分補給を促し、熱中症対策を講じる)

・試合終了後、線審または得点係は、審判台・サービスジャッジ席・線審席・コーチ席・サービス高測定器・得点板等を消毒する。

・サービスジャッジ、線審は手袋(ビニール/ゴム)を使用する。

→本部でバインダーなどと一緒に手袋も渡す。

- ・選手同士や審判員との握手は行わない。
- ・トスは、フィジカルディスタンスを確保して行う。
- ・コールは、必要最小限とする。

⇒「プレイ」「フォルト」「レット」「ゲーム」等のみで行う。

⇒サービスジャッジは、違反の種類を示す指定の合図を行い、コールはしない。

⇒線審は、指定の合図を行い、コールをしない。(主審とのアイコンタクトが重要)

⇒得点板がある場合は、ポイントのコールをしない。→本大会ではコート周りの人数を減らすため、得点板は線審が行う。

・シャトルの交換は、選手がシャトルを直接筒から取り出すか、選手が一定の距離にきたら、投げて渡す。シャトルの交換時は、選手が回収ボックスに入れる。

7) 観客の管理

・発熱者の入場を禁止する(外出前の検温の徹底または、入場時の検温を行う)。

・観客の入場を認める場合には、マスクの着用を義務付けたうえで、出入口付近や通路にアルコール等の手指消毒剤を設置し、観客同士が密な状態にならないように、あらかじめ定員

を設定し間隔を空けるなど配慮する。

・一斉に観客の移動が発生し、密になりそうな場合は、主催者によるコントロールが重要となりますので、事前にシミュレーションを行う。観戦場所が狭い場合には、当面の間、観客の入場を不可とする。

・応援は、声援を不可とし、拍手や指定した鳴り物に限定し、指定した席で行う。→本大会では拍手のみとする。席を移動しての応援や手すりからの応援はさせないようにする。会話をする場合は、マスクの着用を励行し、あらかじめ観客者には周知する。

・会場内での諸注意等を事前周知する。

8) ゴミの処理

感染症拡大防止の観点から各自持ち帰り自宅で処分させてください。

ただし、大会運営上発生したゴミは、マスク・手袋を着用した上で回収し、破棄する。作業後は、必ず手を洗い、手指を消毒する。

Ⅲ. 大会の参加者募集に関する留意事項

以下に感染症拡大防止のため、参加にあたっての遵守事項を記します。参加者の安全を確保するため、これを遵守できない参加者には、大会前・大会中に関わらず参加資格を取り消したり、途中退場を求めたりすることがあります。

(1) 次の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる

- 1) 体調がよくない(例:発熱・咳・倦怠感などの症状がある)
- 2) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる
- 3) 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある

(2) マスクの持参・着用

競技を行っていない時、会話をする時にはマスクを着用する

(3) 手洗い、アルコール等による手指消毒等による日常の感染症予防の実施

(4) 他の参加者、大会関係者等との距離の確保(できるだけ 2m 以上)

(5) 大きな声での会話や応援(声援)の禁止

(6) 参加者把握のため、氏名・連絡先等の個人情報取得及び管理

要項などで指定した様式にて当日回収し、保管を行う

(7) 感染防止のために主催者が決めた措置の遵守、主催者の指示に従う

Ⅳ. 大会当日の受付時に関する留意事項

(1) 受付場所には、アルコール等の手指消毒剤を準備する

(2) 人が対面する箇所には、遮蔽物(アクリル板等)を設置する→本部に設置する

- (3) 共用物品は定期的に消毒を行う
- (4) 受付担当者はプログラムや関係資料のなどを受け取ったり手渡ししたりするため、マスク及び手袋の着用などを行い、受け渡す時も机にいったん置き、置いた物を受け取るような対応を行う
- (5) 参加者が距離をおいて並べるように目印等を付ける
- (6) インターネットやスマートフォンを活用した受付方法を取り入れ、密を避けるようにする（棄権の連絡やメンバー変更等）
- (7) 発熱や咳など体調不良の症状がある人の入場制限を行う（必要に応じて検温）

V. 大会参加者に関する留意事項

- (1) 受付時に、健康状態確認シート（自宅またはホテルで検温）を提出する（初日のみ）。体育館に入るときに検温する。
- (2) 37.0℃以上で、体調に異変を感じた時には参加を中止する。また、棄権時は、会場に行かず、メール及び電話等で連絡する。（大会期間中に 1 人でも体調に異変を感じた部員がいる大学は全員会場に来ないようにする。）
- (3) 外履きは袋に入れ自分で管理し、下駄箱は使用しない
- (4) 試合以外では、マスクを着用する。また、こまめな水分補給や、屋外で周りの人と間隔が取れる時にマスクを外すなど各自で熱中症対策をすること。
- (5) 更衣室は、密を避けるよう各自が心掛けて利用する。また、定員が設定されている場合は遵守する
- (6) 観戦は、指定された場所や席、または距離を空けて行い、席を移動しない
- (7) 観戦中の応援は、声を出さず拍手などで行う。席を移動しての応援はしない
- (8) ウォーミングアップは距離をあけて行う
- (9) コートへの入退場は、それぞれ指定された時間に、速やかにコートに集合する（移動の際は 2m 以上の間隔を空ける）
- (10) コートサイドにはかごやドリンクケースは設置しないので、バッグ等を持参し、コートサイドもしくは所定の場所に置き、ドリンクも各自のバッグに収容する。こぼした時は、モップ等で拭きとる（自分のタオルを使用して拭かない）。
- (11) ラケット・タオル等の用具の貸借はしない
- (12) 床の汗拭きは、モップもしくは所定の用具を使用する
- (13) 汗をコート内やコートサイドに投げない（自分のタオルで拭く）
- (14) シューズの裏を手で拭かない（拭きたい場合はタオルや雑巾を持参する）
- (15) 意識的に試合中の声出しはしない
- (16) プレーヤー同士やコーチとハイタッチ等の接触を行わない
- (17) コーチングは一定の距離を保ち、必要最小限に短時間で行う

(18) ゴミは全て持ち帰り自宅で処分する

(19) 自身の試合・役割(敗者審判等)が終了したら、観戦や応援をせず、速やかに帰宅する(または同じ大学の部員が全員終了した時)

(20) 大会期間中は試合後でもコロナ対策を徹底すること。(極力外出しないことや外出するときは大人数で行動しないことなど)

(21) 新型コロナウイルス接触確認アプリをダウンロードすることを推奨する。

VI. その他の留意事項

大会関係者から感染者が発生した場合の備え、個人情報の取扱いに十分注意し、大会当日に大会関係者から提出された書面や大会申込み用紙を1か月以上は保管し、速やかに確認・提出可能な状態にします。

※感染症対策を遵守し、37.0℃以上あるなど体温に異常がみられる場合や、体調が優れない場合には大会会場へ行かずに棄権してください。クラスターを発生させないことが最優先です。